

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「地域産業連携重点型」工科高校として再出発した。インターンシップや地域連携等に重点を置き、また、産業創造系、機械系、電気系がもつ特徴を生かし、本校がこれまで培ってきた伝統と教育活動を踏まえたものづくり教育を中心とした工業教育を行う。

校訓として、「誠実・剛毅」「自主・創造」「敬愛・協力」を掲げ、健全な生徒の育成を図る。

本校のミッション（使命）は、「地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えた、ものづくりのスペシャリストの育成」である。『「地域の宝」となる！』というスローガン（標語）を掲げ、経済産業省が提唱する『社会人基礎力』の育成とともに、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。

- 1 国際的な工業人として人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と社会の基本的なルール・マナーを身に付けた、工業のスペシャリストを育成する学校。
- 2 学校行事や部活動への積極的な参加を通して、礼儀正しい挨拶や規範意識などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校。
- 3 地域の「ものづくり教育」の発信源となり、地域に根ざし、保護者や地域から『地域の宝』と信頼される学校。
- 4 生徒から『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』と言われる学校。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進

- (1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。
- (2) 少人数授業等を導入し、「魅力のある授業」・「わかる授業」をめざし、教員の授業力の向上を図るとともに、生徒の満足度を高める。
- (3) 授業公開・研究授業などを充実させ、授業内容や指導方法の改善を図る。授業公開週間を活用し、全教員が一度は授業見学に参加するよう指導する。

※授業公開週間を年2回実施、3教科（国・数・英）の補習を130回以上、入学満足度を65%以上、登校満足度を65%以上、授業理解度を70%以上、授業見学への教員の参加数220回以上とし、2020年度までには、授業公開週間を年3回実施、3教科（国・数・英）の補習を150回以上、入学満足度を70%以上、登校満足度を70%以上、授業理解度を75%以上、授業見学への教員の参加数240回以上とする。

（3教科の補習：H26 182回、H27 200回、H28 137回 H29 139回）

（入学満足度：H26 60.8%、H27 58.6%、H28 64.9% H29 72.0%）

（登校満足度：H26 54.4%、H27 53.5%、H28 62.3% H29 68.1%）

（授業理解度：H26 69.2%、H27 66.8%、H28 73.1% H29 76.2%）

（授業見学への教員の参加数：H28 210回 H29 264回）

2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進

- (1) 産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。
- (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。
- (3) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させる。
- (4) カウンセリングマインドを有し、生徒が気軽に相談できる教員の体制づくりをめざす。

※企業見学は2年生全員参加、インターンシップ参加者を30名以上、応募前職場見学参加率を40%以上とし、就職1次合格率を80%以上で工科高校3位以内とする。また、資格取得者数を700名以上、コンテスト応募件数40件以上とする。

2020年度までには、その他の企業見学を300名以上、応募前職場見学参加率を50%以上とする。また、資格取得者数を750名以上、コンテスト応募件数50件以上とする。

（資格取得者数：H26 858名、H27 759名、H28 804名 H29 782名）

（インターンシップ参加者：H26 80名、H27 106名、H28 118名 H29 23名）

（コンテスト応募件数：H28 30件 H29 64件）

（就職1次合格率：H26 87.4%【工科高校第1位】、H27 83.9%【第2位】、H28 87.8%【第1位】、H29 86.3%【第3位】）

3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成

- (1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。
- (2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。
- (3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。
- (4) 生徒課題の早期発見のため、家庭や中学校との連携を深め、中途退学者の減少を図る。

※遅刻件数を1000件以下、クラブ加入率を45%以上、退学率を2%未満とし、2020年度年度には、遅刻件数を900件以下、クラブ加入率を50%以上とする。

（遅刻回数：H26 1,489件【前年度比1.8%減】、H27 948件【前年度比36.3%減】、H28 861件【前年度比9.2%減】H29 1073件）

（クラブ加入率：H26 44.6%、H27 50.6%、H28 50.1%、H29 42.0%）

（退学率：H26 2.46%、H27 1.63%、H28 3.30%、H29 2.94%）

（転退学者：H26 転学15名・退学20名、H27 転学30名・退学13名、H28 転学12名・退学26名、H29 転学4名 退学23名）

4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり

- (1) 入試状況を踏まえた中学校訪問や学校説明会を実施し、学校の魅力の発信を効果的に実施する。
- (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。
- (3) 校内のICT化を推進し、効率的、効果的な情報発信をおこなうとともに会議時間の縮減など教員の負担軽減を図る。

※企業連携15社以上、学校PRを8回以上、学校Webページの更新を80回以上とし、2020年度には、企業連携20社以上、学校Webページの更新を100回以上とする。

（学校Webページの更新：H26 74回、H27 85回、H28 83回、H29 95回）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 1 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>○生徒の評価は昨年度大きく向上し、今年度も概ねさらに向上する傾向にある。保護者の評価は今年度ほぼすべての項目で大きく向上しており、高い評価を得ている。教職員は項目によって変動が大きく、上昇と下降が相半ばしている。</p> <p>以下、(①生徒アンケート、②保護者アンケート、③教職員アンケート)</p> <p>【総合的な項目】</p> <p>○総合的な項目においては、生徒は昨年の改善を維持、保護者は肯定的評価が微増傾向、教職員は昨年の減少を持ち直しており、全般的に良好な結果である。</p> <p>①「学校へ行くのが楽しい」69.2% (昨年度+1.1%) 「この学校に入ってよかったと思う」68.1% (昨年度-3.9%)</p> <p>②「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」76.1% (昨年度+2.9%) 「子どもを佐野工科に行かせて良かったと思う」94.4% (昨年度+2.2%)</p> <p>③「教育活動全般において、生徒や保護者の願いにこたえている」73.9% (昨年度+9.2%)</p> <p>【学習指導等について】</p> <p>○学習指導に関する項目は、生徒、保護者、教員共に肯定的評価が増加しており、学習指導全般における取組が高く評価されている。</p> <p>①「普通科目の授業はわかりやすい」78.7% (昨年度+3.0%) 「専門科目の授業(座学)はわかりやすい」74.8% (昨年度+3.4%) 「実験・実習などの授業はよく学習できている」82.6% (昨年度+1.1%)</p> <p>②「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」59.8% (昨年度+1.0%)</p> <p>③「到達度の低い生徒に対する学習指導を、全校的課題として取り組んでいる」54.3% (昨年度-1.5%) 「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を個に応じた視点で工夫している」56.5% (昨年度+6.5%)</p> <p>【生徒指導等について】</p> <p>○生徒指導に関する項目は、保護者においては評価が向上しているが、生徒と教職員において、問題意識が提示されている。次年度に向けて改善の努力が必要な項目である。</p> <p>①「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」81.8% (昨年度-1.4%) 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」59.2% (昨年度-2.6%) 「学校生活についての先生の指導は納得できる」60.7% (昨年度-6.9%)</p> <p>②「学校の生徒指導の方針に共感できる」83.8% (昨年度+2.8%) 「学校は子どもに命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」89.6% (昨年度+2.7%) 「学校では、いじめや差別を許さず、厳しく指導している」88.8% (昨年度+1.9%)</p> <p>③「生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」67.4% (昨年度-6.1%) 「教育相談体制が整備されており生徒は学級担任以外の教員とも相談できる」73.3% (昨年度+11.6%) 「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています」80.4% (昨年度+2.3%) 「この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」37.0% (昨年度-7.2%)</p> <p>【その他の項目について】</p> <p>○昨年度の診断結果より課題とされた、家庭と学校の連携不足、情報提供の不足に対しては、学校の改善努力の結果、大きく向上が見られた。</p> <p>②「学校は教育情報について、提供の努力をしている」79.6% (昨年度+3.7%) 「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている」76.6% (昨年度+6.0%)</p> <p>③「教育活動に必要な情報について、生徒や保護者の願いにこたえている」80.4% (昨年度+24.6%)</p> <p>【まとめ】</p> <p>○昨年度から取り組んでいる授業改善については、概ね生徒・保護者の支持を得ており、新学習指導要領も見据えて、学習指導に対する改善努力は継続して実施していきたい。</p> <p>一方、生活指導に関する内容については、生徒・教職員の間で問題提起がなされており、次年度に向けて体制、方法等の改善の取り組みが必要と思われる。今年度、保護者との情報共有等に積極的に改善努力を行い、高い評価を得た。保護者の学校行事等への参加も増加しており、良い関係性を構築する中で、高い信頼を得ることができている。</p> <p>今後より一層「入学してよかった」「学んでよかった」「卒業してよかった」学校と言ってもらえるよう取り組んでいきたい。</p>	<p>第1回 平成30年6月13日(水) 15:30~17:00</p> <p>○入試倍率1.06倍は実際のところ、何人定員を上回ったのか。 Ans. 280名募集のところ299名受検したので19名です。</p> <p>○アンケートを行って目標達成度をはかるのは良いが、他校との比較はどのようになっているのか。 Ans. 校長会で遅刻数の経年変化を比較することはあったが、学校として比較を行ったことはない。 ○工科高校の中での比較は必要なのでは。 Ans. 今後検討します。</p> <p>○定員割れを防ぐことは大事なこと。普通科の習熟度別の授業編成についてどのような状況か。 Ans. 英語科を例に回答。昨年度より行っている基礎と標準の2クラスに分けて5月から9月まで行い、その後再編成を行っていく予定。</p> <p>○それについての評価はどのようになっているか。 Ans. アンケートをとり、実施されて良かったという声をもとに今年も行っている。</p> <p>第2回 平成30年10月23日(火) 15:40~17:00</p> <p>○工科高校が再編整備計画の対象になり、今後5年間の廃校はないということではあるが、見通しとして具体的に定員はどのようになるのか。 Ans. 募集人数は現状の280人から2020年には210人になる。</p> <p>○倍率が上がることも予想されるが、それでどのような影響が考えられるか。 Ans. ものづくりに興味を持ち、目的意識のある生徒を集めたい。今回の再編整備が追い風になってくれることを願うが、この2~3年で生徒数の急減期にもなっており、分母も減っている様子である。</p> <p>○確かに中学校では3年生より2年生の人数が減っているの、希望があるのに入れないというほどのことではないと思う。</p> <p>○魅力の発信として産業創造系のコンテスト応募数の増加が挙げられているが、応募生徒の人数が増えたのか、応募したコンテスト自体の数が増えたのか。また実際にはどちらが良いのか。 Ans. 現状は教員からの働きかけで2年生が全員応募のものがあるので、コンテスト件数より応募生徒の人数で応募数が多くなっている。理想は生徒からの希望が出て応募する形でコンテスト件数が増えることである。</p> <p>○学校の魅力を大会参加の成績やコンテスト成果でアピールしているのはわかるが、次のステップとして進路先情報がよく見えるようにすることが必要ではないか。インターンシップ、企業とのつながり、求人数などもっとアピールするとよいのではないか。</p> <p>○オープンスクールは好評だったようだ。PTA会長と生徒会会長がスピーチをした。生徒会長の保護者、生徒に語りかける話し方は上手で好評だった。PTAとしても学校に協力できることがあれば行う。</p> <p>○オープンスクールに関して工夫、努力の成果が出ていることがわかった。どれくらいの人数が参加したか。 Ans. 参加人数の内訳は生徒が147名、保護者が64名、教員が2名。200名以上になったので2つの会場に分けて行った。保護者と生徒がスピーチすることは、中学生及びその保護者にとって効果的であるとともに、本校の生徒自身の成長にもつながり、良かった。</p> <p>第3回 平成31年2月19日(火) 15:30~17:00</p> <p>○いじめに対しての具体的な対応はどのようにしているのか。 Ans. 加害者と被害者、また周囲にいる生徒の話聞き取るなどを行い判断している。また、被害者に対する心のケアも行っている。いじめ早期発見のため、いじめチェックアンケートを行い、その記述内容に基づいて対応をしている。</p> <p>○オープンスクールの成果もあったようであるが、広報活動は地域性から的を絞るやすいのではないかと、今後募集定員はどのようになっているのか。 Ans. 本校の生徒については岸和田以南から92%来ており、地域性が強い学校である。募集定員は、次年度は240名、その次は210名になる予定。</p> <p>○志願者倍率を上げるべく今後も努力を続けてください。</p> <p>○学校教育自己診断のアンケート項目で、不満回答に対してはもう一段階深めた選択肢を作るのはどうか。 Ans. 項目内容の見直しは、今後必要であると考えている。自由記述式もとっているが、項目を増やしすぎると数値の信頼性に疑問が出る可能性がある。</p> <p>○商工会議所からの依頼のイベントを快く引き受けてくれた。その際活動した生徒の皆さんが自信をもってやってくれたことが良かった。 Ans. 今後も地域に根付いた活動を通して市民の理解を得、評価してもらえよう続けていきたい。</p> <p>○電気工事士やDD3種など多数の生徒が合格し、役に立つ仕事に就けることは、一人前の社会人になったときの一生誇れるものであると思う。工業高校の強みも活かして行ってほしい。</p> <p>○再編整備が行われるとどのように変わるのか。 Ans. 何かを創り出す能力を育てることが今後の工業教育に求められている。3年生の課題研究という科目で、取り組むことになる。その活動を3年次にできるよう、1年生からの取り組みについての検討を今行っているところである。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 技能を定着させる学習指導の推進・ 基礎的・基本的な学力と技術	(1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開し、授業規律の徹底を全教員で実践する。 (2) 「魅力のある授業」・「わかる授業」をめざし、教員の授業力の向上を図るとともに、生徒の満足度を高める。 (3) 授業公開・研究授業などを充実させ、授業内容や指導方法の改善を図る。	(1) 基礎学力の定着に向けた、早朝学習と放課後の補習授業の実施。 ・遅刻・中抜け・無断早退等の根絶。 (指導カードの活用) (2) 少人数授業等を行い、生徒一人ひとりに応じた指導をする。 (国語、数学、英語の3科目) (3) 授業見学や研究授業を実施し、授業力の向上を図る。 ・生徒の興味や関心を高め、学習意欲を向上させるために、ICT 機器活用を促し、教材や指導法を研究・開発する。	(1) 3教科(国・数・英)の補習 130回以上(H29 139回) (2) 入学満足度 65%以上(H29 72.0%) 登校満足度 65%以上(H29 68.1%) 授業理解度 70%以上(H29 76.2%) (3) 授業見学会 2回以上実施(H29 2回) 教員参加数 220回(H29 264回) 授業改善研修2回以上(H29 3回)	(1) 3教科(国・数・英)の補習 計141回(◎) (2) 入学満足度 68.1%(◎) 登校満足度 69.2%(◎) 授業理解度 76.8%(◎) (3) 授業見学会 2回実施(○) 教員参加数268回(○) 授業改善研修 5回(◎)
2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進	(1) 工科高校における新たな教育を探求し、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。 (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。 (3) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させる。 (4) カウンセリングマインドを有し、生徒が気軽に相談できる教員の体制づくりをめざす。	(1) ものづくり教育を推進するため、実用新案権の学習とともに、機械加工技能士、電気工事士、色彩検定、情報処理能力検定などの資格取得に取り組む。 ・ものづくりに関する競技に積極的に参加出場する。 (2) 学校設定科目、1年「キャリアプランニング」、2年「キャリア実現」を活用して、正しい職業観・勤労観や各種の職業に関する知識の理解を深める。 ・進路指導部が中心となり、学年団・専門系と連携し、進路講話やインターンシップ、企業見学などを実施し、進路選択の情報提供を充実させ、進路決定の意識を向上させる。 (3) 支援コーディネータを中心として、教科担当者と担任等が連携し、学習支援や相談機能を充実させ、中途退学者の防止を図る。 ・各種会議等を活用して、生徒の問題の早期発見と解決を図る。 (4) 教育相談体制の整備、充実などを行い、厳しさの中にも、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行う。	(1) ・資格取得者数 700名以上(H29 782名) ・コンテスト応募件数 40件以上(H29 64件) ・近畿大会・全国大会入賞 (H29 ロボット相撲全国大会、マイコンカー全国大会、エコデンカー) (2) 三者面談 3回以上(H29 3回) 進路講話 5回以上(H29 5回) インターンシップ参加者 30名以上(H29 23名) 企業見学 300名以上(H29 279名) 応募前職場見学参加率 40%以上(H29 47.8%) 就職1次合格率、 80%以上、工科3位以内 (H29 86.3%、第3位) (3) 支援準備委員会 5回以上 支援チームの会議 5回以上 ケース会議 3回以上 (4) 生徒相談満足度 55%以上(H29 61.8%)	(1) ・資格取得者数 697名(○) ・コンテスト応募件数 133件(◎) ・入賞多数(◎) (ビジネスアイデア甲子園) 学校賞・準グランプリ (大阪府生徒児童発明工夫展) 大阪商工会議所会頭賞 (毎日・DAS 学生デザイン賞) 部門賞 5点入選 (ロボット相撲近畿大会) 自走式・ジャンボ式優勝 (マイコンカー近畿大会) 7トランス部門 準優勝 (2) 三者面談 4回(○) 進路講話 5回(○) インターンシップ参加者 26名(○) 企業見学 348名(◎) 応募前職場見学参加率 54.9%(◎) 就職1次合格率、 86.7% 6位(○) (3) 支援準備委員会 10回(◎) 支援チーム会議 21回(◎) ケース会議 5回(◎) (4) 生徒相談満足度 59.2%(◎)
3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成	(1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。 (2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。 (3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。 (4) 生徒課題の早期発見と家庭との連携を深め、中途退学者の減少を図る。	(1) 担任団と生活指導部が連携し、学年別の生徒情報交換会で課題のある生徒の情報の共有化を図る。 ・日常的に頭髪、服装、携帯電話等についての指導を行う。また、定期的に全校的な指導を実施し、規範意識の向上を図る。 (2) 中高連絡会に参加し、生徒情報の収集と活用に努める。 ・外部講師による講話など実施して、落ち着いた学習環境と他の人を尊重する心を養う。 (3) 部活動への加入を勧め、全学年において、教員と生徒のつながりを深めるとともに愛校心を育成する。 (4) 課題のある生徒について、教員間で情報共有を行い、家庭との連携を密にして、育成に努める。	(1) 生徒情報交換会 全体2回、個別1回 (H29 全体2回、個別2回) 指導件数20件以下(H29 20件) 遅刻回数1000件以下(H29 1073件) (2) 中高連絡会 7回以上(H29 10回実施) 外部講師の講演会 3回以上(H29 5回) (3) クラブ加入率 45%以上(H29 42%) (4) 退学率 2%未満(H29 2.94%)	(1) 生徒情報交換会 全体2回(○) 指導件数 (32)件(△) 遅刻回数 (1229)回(△) (2) 中高連絡会 7回(○) 外部講師の講演会 4回(○) (3) クラブ加入率 39.2%(△) (4) 退学率 2.4%(△)
4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり	(1) 入試状況を踏まえた中学校訪問や学校説明会を実施し、学校の魅力の発信を効果的に実施する。 (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。 (3) 校内のICT化を推進し、効率的、効果的な情報発信をおこなうとともに会議時間の縮減など教職員の負担軽減を図る。	(1) 中学校訪問に加え、学校での説明会の回数を増やし、本校の魅力に触れる機会を確保する。 (2) 地域企業と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る(インターンシップを除く)。 ・行政機関や民間団体と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりへの関心を高める。 (3) 教職員のICT環境を整備し、情報共有の効率化を図る。 ・様々な時期に応じた学校PRを行い、学校Webページに情報発信する。 ・会議時間の短縮を図り、教職員の負担を軽減し、働き方改革を行う。	(1) 学校説明会等回数 校内 5回以上(H29 7回) 校外 6回以上(H29 8回) 企業訪問数 50社以上(H29 87社) (2) 企業等連携 10社以上(H29 11社) 学校PR 10回以上(H28 14回実施) (3) ICTパソコンを用いた校内情報共有体制の構築。 ・学校Webページの更新 80回以上(H29 95回) ・職員会議実施時間 1時間以内 6回以上	(1) 学校説明会等回数 校内4回 校外10回(○) 企業訪問数 98社(○) (2) 企業等連携 25社(◎) 学校PR 11回(○) (3) 校内情報共有体制の構築済 ・学校Webページの更新 257回(◎) ・職員会議実施時間 1時間以内18回(◎)